

加茂地域における今後の公共交通のあり方について

1. 連携計画における基本方針との整合

昨年度に策定した「木津川市地域公共交通総合連携計画」では、今後の公共交通づくりの基本方針を、以下のように定めている。

地域特性に応じた利便性の高い地域公共交通システムを構築することにより、活力と魅力ある地域づくりを目指す
鉄道・バス・タクシー等が連携し、市民にとって利用しやすく満足度の高い持続可能な地域公共交通対策に取り組む

加茂地域では、鉄道、バス、またタクシー等の公共交通手段が市民生活を支えており、特にコミュニティバスについては、運行内容を見直す等により、可能な範囲において利用者の満足度の向上に努めている。

一方、持続可能な地域公共交通対策でありつづけるためには、過剰な行政負担に頼らない交通手段となることが求められており、運行経費における利用者負担（運賃収入）の割合を高める必要がある。

2. 加茂地域コミュニティバスの運行継続条件と利用実態

(1) 加茂地域コミュニティバスの運行継続条件

加茂地域コミュニティバスの利用者数は低迷しており、運行維持を図るために、運行形態についても自家用有償運送の手段をとっているものの、経費の約 8.5 割（参考：運行経費 5,244,513 円 運賃収入 728,800 円 H20.11～H21.3）を市から補助している。

しかしながら、将来にわたり加茂地域の地域交通を維持するためには、現在の 7 路線（通学線除く）各々において効率化を図ることが必須である。

以上より、路線毎の運行継続条件を以下のとおり定め、市民に情報提供を行い、利用を促してきたところである。

定時定路線の継続条件：1 路線あたり約 10 人 / 日

なお、上述した継続条件は、毎月市広報と合わせて発行する「公共交通だより」の平成 21 年 3 月号、5 月号、8 月号、11 月号、12 月号に掲載している。

(2) 加茂地域コミュニティバスの利用実態

加茂地域コミュニティバスの利用者数は、全ての路線で定時定路線の運行継続条件を下回っている。ただし、平成 21 年 8 月以降に利用者が伸びている路線もみられ、また 11 月、12 月の対前年比較では、奥畑線、銭司線、西線、大畑線では 1.0 を超えている。

表 日別の利用者（大人のみ）

| | 平成20年 | | 平成21年 | | | | | | | | | | | | 合計 |
|-------|-------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | |
| 山田線 | 5.9 | 5.5 | 5.4 | 5.7 | 4.4 | 6.6 | 5.7 | 5.8 | 5.8 | 6.5 | 5.4 | 5.1 | 4.9 | 4.6 | 5.5 |
| 大畑線 | 3.7 | 3.7 | 3.4 | 3.4 | 5.0 | 4.0 | 4.3 | 4.0 | 3.5 | 2.9 | 4.0 | 3.7 | 3.8 | 3.8 | 3.8 |
| 観音寺線 | 0.7 | 1.5 | 0.9 | 0.6 | 0.8 | 0.3 | 0.5 | 0.5 | 0.8 | 0.3 | 0.4 | 0.6 | 0.5 | 0.6 | 0.6 |
| 南加茂台線 | 3.0 | 3.3 | 1.6 | 2.6 | 2.5 | 3.0 | 2.8 | 2.1 | 3.3 | 4.0 | 3.4 | 3.5 | 2.2 | 2.5 | 2.8 |
| 奥畑線 | 9.8 | 8.2 | 6.8 | 7.4 | 7.8 | 9.1 | 7.0 | 6.2 | 6.2 | 5.8 | 7.7 | 9.6 | 10.3 | 9.7 | 7.9 |
| 銭司線 | 6.2 | 7.5 | 8.0 | 7.8 | 9.0 | 8.8 | 6.8 | 6.0 | 7.2 | 6.5 | 6.8 | 8.5 | 8.3 | 7.6 | 7.5 |
| 西線 | 8.5 | 6.9 | 6.7 | 6.9 | 7.9 | 7.0 | 6.7 | 6.4 | 6.1 | 4.8 | 6.6 | 8.6 | 9.3 | 6.8 | 7.1 |
| 通学線 | 2.6 | 2.2 | 1.9 | 2.2 | 2.1 | 2.6 | 2.6 | 2.1 | 2.9 | 0.0 | 2.6 | 2.5 | 2.5 | 2.7 | 2.0 |

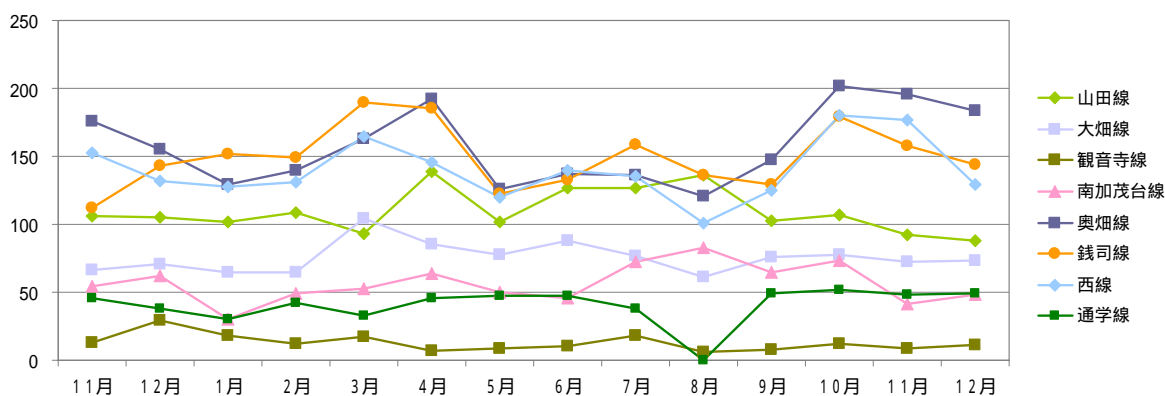


図 月別の利用者数（大人のみ）

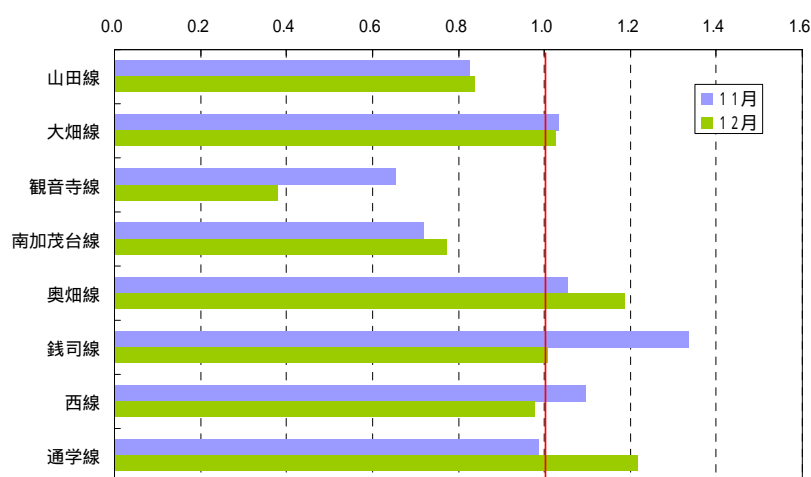


図 11 月、12 月の日利用者数の対前年比（大人のみ）

3. 運行見直しの考え方

加茂地域コミュニティバスは、定時定路線の運行条件を、毎月上回っている路線がなく、運行条件のみで判断すれば、すべての路線がサービス維持困難ということになる。

しかしながら、前年と比較可能な11月、12月をみると、駅西発着便である奥畑線、銭司線、西線、全てにおいて対前年比が1.0を上回っており、徐々に地域交通として浸透している状況も伺える。そのため、これらの路線は利用促進に努める中で、利用動向を注視しつつ、引き続き現状サービスを維持する必要がある。

一方、駅東発着便である大畑線についても、対前年比が1.0を上回っており徐々に地域交通として浸透している状況も伺えるが、今後も利用者数の低迷が続く場合は、早い段階で運行サービスの見直しを行うものとする。

一方、山田線、南加茂台線、観音寺線については、現時点で利用者数が極端に少なく、かつ利用者数も減少傾向にあるため、加茂地域コミュニティバス全体の持続を考える場合、今後の定時定路線のサービス維持は困難と判断せざるを得ない状況にある。

(通学便は、学生の通学移動を守る観点より、今回の見直し対象には含めない)